

2021 年度
令和 3 年度
事 業 報 告 書

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

2021年度事業報告

I. 事業の状況

2021年度の事業計画に従い「助ける」「集める」「広める」事業を行った。新型コロナウイルス感染拡大により、研究者・学生の研究調査活動の制限や大学や関連施設の利用制限等に伴い、助成研究計画や期間の変更、イベントの中止を余儀なくされた。

1. 「助ける」研究助成事業

2021年度の研究助成応募数 77 課題（個別研究 48、育成研究 29）から、採択した 13 課題（個別研究 9、育成研究 4）、および育成研究 2 年目の 3 件に対して 4 月中旬、助成金 12,598,000 円を交付した。これによりこれまでに助成した課題数は 253 課題、助成金額の累計は 264,250,000 円となった。

なお、上記 16 課題中、個別 3 課題、育成 2 年目の 1 課題で移動制限等により、調査活動を計画通り進捗できず、研究期間の延長を余儀なくされた。同じく、2020 年個別 3 課題、2019 年育成 2 年目 2 課題も引き続き延長を希望した。財団としては、研究者の研究意欲にのっとり、引き続き、延長や変更を受け入れることで対応することとした。

専門委員の現体制が 3 年目となり、これまでに行ってきた募集要項記載事項の追加（採捕許可をはじめとする法令等への対応を促す記述など）や、審査結果通知への専門委員評価コメント付記等、積極的に応募の質と量を向上させる取り組みを引き続き行った。評価コメントを受け、翌年度の申請書へ反映させた申請者もいたことから、こうした取り組みの効果が表れてきたものと考えられる。また、1 年目評価についてもコメントを付記することでより今後の研究への気づきを促すことができた。

2. 「集める」研究情報・資料・論文の収集、図書の交換、学会の聴講等

(1) 軟体動物後鰓類(ウミウシ類)を中心とする水棲の無脊椎動物に関する研究

情報と画像等、近年出版された研究情報や論文などを収集した。これまでに撮影した画像の整理と同定を進め、一部はウェブサイトの図鑑にアップした。

(2) 資料・論文の収集と保管

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、観察会は中止した。新規の生物分布情報を得ることはできなかったが、過去の観察会で撮影された写真資料等の同定・整理を進めた。今年度は棘皮動物を専門とする研究者に同定を依頼し、再同定と画像整理を進めた。成果は下記 3-(5)のデータベースへ入力予定である。

(3) 学会等の聴講

水棲の無脊椎動物全般の研究情報を収集するため、オンラインで開催された以下の学会年会、シンポジウムおよび講演会に参加し、情報を収集した。日本動物分類学会大会、日本貝類学会令和3年度大会、日本動物学会米子大会、日本甲殻類学会大会、日本付着生物学会総会・研究集会、第21回日本分類学会連合公開シンポジウム「共生一種を超えたつながり」、海と地球のシンポジウム 2021、藤原ナチュラルヒストリーシンポジウム 2021。そのほか、定期的に行われる瀬戸海洋生物学セミナー（瀬戸臨海実験所主催）や鹿児島大学国際島嶼教育研究センターの研究会に参加し、研究情報を得ることができた。

新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン形式での開催が続いており、遠方で参加しにくいシンポジウムや研究会等にも参加することができた。新しい研究情報を得て、そのうちのいくつかについて「うみうし通信」に執筆依頼し、掲載した。

3. 「広める」研究情報や海の無脊椎動物の知識を普及啓発すること

(1) 機関誌「うみうし通信」の発行

当財団の機関誌であり、博物館・研究所等との交換図書にもなっている。今年度はNo. 111～No. 114までの4号を発行した。昨年度に行ったレイアウトの変更により、写真を大きくした表紙や内容の見やすさが好評を得ており、できる限り様々な分類群を取り上げることで、読者の方から内容も非常に興味深いとのご意見をいただくこともあった。購読のための会員登録は引き続き増加が続いている。

印刷部数は1,000部、配布部数は約700部、うち、有料配布は「うみうしくらぶ」会員。無料配布は、国会図書館、官公庁、試験研究機関、博物館、水族館、大学などの図書交換先、および寄付者、財団賛助会員、財団関係者などである。

また、情報をより一般にも広めるため、著者の同意が得られ、発行後1年が経過したバックナンバーを、財団WEBサイトで公開している。今年度はNo. 107～110を公開した。

(2) 「うみうしくらぶ」会員および財団賛助会員の維持と発展

うみうしくらぶの期末会員数は259名となり、法人会員は8団体、個人会員251名となった（個人会員の新加入17名、退会17名〔会費長期未納者を含む〕、賛助会員への移行13名）。昨年度から入会は増加しつつあり、うみうし通信のレイアウト刷新やホームページでのバックナンバーの公開、SNSによる広報の効果などによるものと考えられる。新規入会には10～20代が8名、30～40代が4名含まれ、若い世代の入会が増加した。

昨年度末に開始した財団賛助会員は2021年度末に19名となった（うち新規登録が6名、「うみうしくらぶ」会員からの移行が13名）。

両会員の合計は、291名（法人8団体を含む）となった。この両会員制度についての現状は、うみうし通信 No. 114 で報告した。

(3) 子供向けおよび会員向けのイベントの実施

実施予定であった、子供を対象とした海の生物観察会「第14回親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」および大人向け観察会は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されており、感染拡大防止のため、2021年度での開催は中止とし、2022年度へ延期した。

(4) 財団 WEB サイトの拡充

WEB サイトにて 2021 年度研究助成採択課題および財団の情報公開をすみやかに行った。サイトコンテンツの更新を進め、うみうし通信の過去 PDF の公開や図鑑写真の見直しなどを進めた。

(5) 生物分布情報の活用

財団が保管する生物の分布情報について、2020 年度より海洋研究開発機構（JAMSTEC）を窓口とする国連ユネスコ傘下の国際的なデータベース（OBIS）へのデータ提供を開始している。2021 年度はデータの準備を中心に進めたため登録は行わなかったが、2022 年度に準備したデータを登録する予定である。

(6) 他機関との協力

ミュージアムパーク茨城県自然博物館が開催した第 81 回企画展「毒をもつ生きものたち -生き残りをかけた大作戦！-」へ、ハブクラゲの標本貸し出しや、展示解説書への写真提供などの協力を行った。

II. 財団の運営

1. 理事会

● 第 1 回理事会 2021 年 5 月 19 日

決議事項 ・ 2020 年度事業報告及び収支決算について
・ 定時評議員会の開催について

報告事項 ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行の状況報告
・ その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる
理事 8 名全員からの同意および監事 2 名から異議が無かった
ので理事会決議があったものとみなされた。

●第2回理事会 2022年3月14日

- 決議事項
- ・2022年度 研究助成課題の決定
 - ・2022年度 事業計画及び収支予算
 - ・基本財産の一部除外について
 - ・評議員会の開催

- 報告事項
- ・代表理事及び業務執行理事の状況報告
 - ・その他の報告事項

- 決議
- 決議の省略手続きによる
理事8名全員からの同意および監事2名から異議が無かった
ので理事会決議があったものとみなされた。

2. 評議員会

●定時評議員会 2021年6月10日

- 決議事項
- ・2020年度事業報告及び収支決算の報告

- 決議
- ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決議事項を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

●第2回評議員会 2022年3月24日

- 決議事項
- ・2022年度事業計画及び収支予算
 - ・基本財産の一部除外について

- 決議
- ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決議事項を可決する旨の評議員会があったものとみなされた。

3. 専門委員会

●第1回専門委員会 2021年8月17日

Zoom オンライン会議により実施

- 議 題
- 2022年度助成課題募集要項の決定
2019年個別（期間延長）および2020年度個別研究助成報告書の評価

●第2回専門委員会 2022年2月21日

Zoom オンライン会議により実施

- 議 題
- 2022年度研究助成課題の審査
理事会への推薦課題の決定

4. 事務的事項

1. 内閣府への提出と届出

2021年6月14日 「事業報告等の提出」電子申請

2022年2月9日 内閣府立ち入り検査

2022年3月25日 2022年度「事業計画書等に係る提出書」電子申請

2. 公告（情報公開）

HP上の「2020年度事業報告書」と「2021年度事業計画及び収支予算」を更新した。

3. 「広める」告知など

2021年度研究助成の採択課題をWEBサイトとうみうし通信 No. 111 で公表した。また、研究助成やうみうし通信発行の告知等はSNS（ツイッターとFacebook）を活用して広報した。

4. 新型コロナウイルス感染症対策をきっかけとした新規取り組み

新型コロナウイルス感染症対策のため、財団事務局の運営もリモートワークに対応できるようクラウド等の活用を進めてきた。2021年度はグループウェアの導入を検討し、よりスムーズな情報共有と電子決裁（押印決裁を廃止し、システム内での決裁およびクラウドデータ保存）の試験的な運用を開始した。これにより、リモートでもスムーズな決裁が行えるよう業務の効率化を図ることができたため、2022年度より本格導入することに決定した。

5. 寄付金など

2020年に財団WEBサイト内に開設した「ご支援のお願い」サイトによって、ウェブサイトからの寄付金の受付ができるようになったことで、寄付件数が増加しつつある。うみうし通信や会員向け書面での案内、SNSでのサイト紹介などの広報活動を行い、総額898,000円（前年度から約60万円の増加）の寄付をいただいた（賛助会員の会費による寄付を含む）。

2021年度は2法人、23名の個人から寄付をいただいた。皆様に謹んでお礼申し上げます。

株式会社メディックス、株式会社ウジエスーパー

塙宗継様、竹中伸也様、河野えり子様、西川輝昭様、

佐藤正典様、神尾道也様、ほか17名。